

全国を感動で包み込んだ第一作を、  
アンコール上映いたします。

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

# ぼけますから、 よろしくお願いします。



ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

2022年

8月21日(日)

①10:30 ②14:00

おりなす八女

2Fハーモニーホール



監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー：大島新 濱潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史  
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一  
配給宣伝協力：ボレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ  
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



●8月に上映を予定していましたが、『野球部員、演劇の舞台に立つ!』は、都合により延期いたします。



# かたうを向けず 初めづ気がいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。  
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をして」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、  
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘  
ドキュメンタリー監督  
**信友直子**



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



**第2弾『ぼけますから、よろしくお願ひします。  
～おかえり お母さん～』**は、秋以降上映を計画中です。

**【料金】前売 1000円/当日 1200円**  
障がいのある方と中高生は500円

●本チラシをご持参いただくか、ご予約をされると前売料金でご入場いただけます。

★主催・お問合せ先：八女で映画をみる会  
☎090-5473-9968 (平井靖文)  
mail: cinema.flower0219@gmail.com